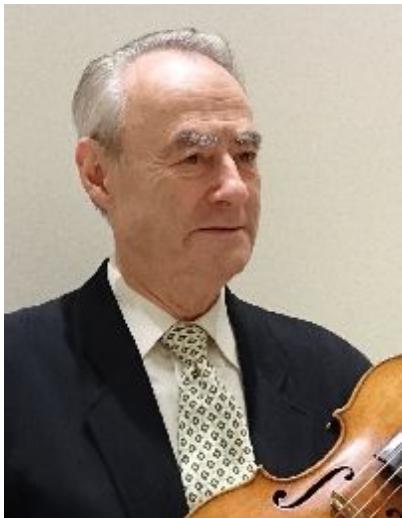


Profile



ジェラール・ブーレ (violin)

Gérard Poulet

ジェラール・ブーレは、指揮者とヴァイオリニストであったガストン・ブーレの息子で、天才少年期を送る（父ガストンはドビュッシーのヴァイオリン・ソナタを作曲家自身のピアノで1917年に初演した事で知られる）。11歳でパリ国立音楽院に入学し、2年後に審査員全員一致の首席で卒業。

18歳の時に、イタリアのジェノヴァでのパガニーニ・コンクールで優勝。巨匠ヘンリック・シェリングに師事。キャリアを世界中に広め、ヨーロッパ、アジア、アメリカ、アフリカの各地で有名オーケストラと共に演奏。名高い音楽フェスティバルや定期公演に出演している。

偉大な教育者でもあり、長年教授を務めたパリ国立高等音楽院を2003年に退官後、パリCNR市立音楽院のソリストコースとエコール・ノルマル音楽院で教鞭を執り、2005年4月から2009年3月まで東京藝術大学の客員・招聘教授を務めた。2010年4月から現在は昭和音楽大学の教授を務める。77歳を超えた現在も現役。コンクールの優勝・上位入賞者を多数輩出し、日本のヴァイオリン界のレヴェルを確実に上げている。

数多くのマスタークラス、主要な国際コンクールの審査員（長）に招聘されている。日本では、京都フランス音楽アカデミー、いしかわミュージック・アカデミー、軽井沢国際音楽祭、河口湖ヴァイオリンセミナー他、アップビートとかち音楽祭、多数の音楽大学（桐朋、国立、沖縄県芸、愛知県芸、フェリス、作陽、洗足）に招かれている。1995年にフランス芸術文化章及び1999年に文化功労賞を受賞。

日本弦楽指導者協会、及び日本フォーレ協会の名誉会員。日本在住。日本をよなく愛し、日本とフランスをほぼ半々に生活している。

公式ホームページ：www.gerard-poulet.com

◆ブーレ氏の言葉：「今が人生の最高。こんなに良い生徒たちを持ったのは生涯で初めて。多くの素晴らしい友人、同僚に恵まれ、日本にいる幸せを感じている。日本人の心（思いやり）、丁寧さ、規律の正しさ、日本の食事が大好き。」

出版物：

音楽の友社より2009年にドビュッシーのヴァイオリン・ソナタ、2011年にサン=サーンスの序奏とロンド・カプリチオーソ、2015年にフランクのソナタ、ラヴェルのソナタ、また2012年4月にレッスンの友社よりチャイコフスキイのヴァイオリン協奏曲のジェラール・ブーレ校訂を出版。

日本では次のCDをリリースしている。

〈クライスラーの珠玉の名曲集〉2006年マイスター・ミュージック株式会社。

〈フランス3大ヴァイオリン・ソナタを弾く〉2008年タカギクラヴィア株式会社。

〈ロシア・ロマン派を歌う〉2010年タカギクラヴィア株式会社。

〈ピレネーの太陽〉2010年キング・インターナショナル。

〈ベートーヴェン7、6、5番「春」〉2013年ALM Record コジマ録音。

〈ベートーヴェン9番「クロイツェル」、10番〉2016年ALM Record コジマ録音。

川島 余里 (piano)

Yori Kawashima



東京生れ。3歳よりピアノを始め、桐朋学園子供の為の音楽教室に学ぶ。東京芸術大学附属高校及び同大学作曲科卒業、同大学院修了。H.ビュイグ・ロジェ氏の指導と影響を受け、演奏家になる志を立て1989年渡仏。パリ国立地方音楽院にてピアノ科とピアノ伴奏科のブルミエ・ブリを取得。O.ギャルソン、G.ジョワ(デュティーユ夫人)に師事。1987年ビティナ第1回特級2台ピアノ部門優勝。2000年イタリア・トランニ国際ピアノコンクールファイナリスト。2005年大阪府吹田音楽コンクール作曲部門「ヴァイオリン・ソロ曲」で優勝。ソロ・室内楽奏者として幅広いレパートリーを持ち、オーケストラ共演も多数。ラジオフランスFM生放送でも演奏。公式伴奏者としても、「ロン・ティボー国際ヴァイオリンコンクール」「チンタオ（青島）国際ヴァイオリンコンクール」をはじめ、「ラヴェル国際音楽アカデミー」「ニース夏期音楽講習会」「カリアリ音楽アカデミー（イタリア）」等、国際的に活躍。

パリ国立高等音楽院を始め、パリ市立音楽院、パリ区立音楽院（第1,第10,第16区）、パリ・エコール・ノルマル音楽院等、5校で同時に伴奏者として勤務する等の活動を経て、2005年帰国。国内外一流のソリストから伴奏を依頼されており、とりわけヴァイオリンの巨匠ジェラール・ブーレに最も信頼されるピアニストとなる。東京藝術大学弦楽科及び附属高校で伴奏助手を務めた後、現在は、東京藝術大学と昭和音楽大学で、室内楽やソルフェージュの講師を務めている。日本フォーレ協会会員。